

2016年5月例会、公開山行

5月8日(日)

# 大和葛城山

大阪府：千早赤坂村  
奈良県：御所市

## Bコース

5月8日うれしい晴天の下、青崩葛城山登山口に到着。9時50分、Bコースは3班に分かれて、天狗谷コースの登山道に入る。私たちのB1班は1名が欠席、コース変更されたビジターのNさん、Sさんを加え7名で出発。

登り始めからやや急登で、後ろから「スピード落として」の声がかかる。ビジターさんに合わせゆっくり登っていった。

水量は少ないが二度ほど渡渉もし、沢沿いの道を行くと、流れる水の音が涼やかで、時折、鳥の声、カエルの鳴く声も聞こえる。葉の上に花が着くおもしろい植物、ハナイカダを教えてもらった。

いつのまにか沢を離れ、登山道は階段になった。丸木1本分の低い段差は歩きやすく大助かり。周りはずっと美しく伸びた杉の木立に。きれいに枝打ちされ、光も差して整然とどこまでも広がっている。整備された墨絵のような美しい森だった。

10時50分、休憩所に着き、一息入れる。道は緩やかになり、木々の間に朱色のツツジが見え始める。

今日は、本当にたくさんの登山者と行き交った。ツツジの見頃に合わせて大勢の人が訪れているのだろう。早くから下山してくる人はロープウェイで上がってきたのだろうか。何人もの人が、「きれいでしたよ。満開です。楽しみにしてください。」と声をかけて行かれる。有名な葛城山のツツジに惹かれて参加したが、どんな感じだろうかと期待がふくらむ。

途中、丸木の段が2本になり、3本になり、息を切らしながら登ると、頂上は目前になり、咲き終わり背を高くのぼしたショウジョウバカマが一面広がるそばで最後の休憩。盛りの頃はきれいなピンクだったろうなと思われる。

11時40分、キャンプ場そばを通過。ロープウェイ山上駅の表示板が見え、大勢のロープウェイのお客さん達と出会う。混み合うトイレ待ちの休憩の後、山頂へ向かう。

歩き始めて2時間10分、12時ちょうどに山頂着。広々と開け、360度の眺望。しかし、春霞なのか残念ながら遠くはかすんでうっすらとしか見えな



(天狗谷)



(葛城山頂にて Bコース)



(葛城山山頂からのつつじ公園)

った。一般の観光客も混じり大賑わいで、記念の写真撮影も順番待ちだった。上空にはヘリコプターが何度も旋回し、ツツジの取材の様。テレビに映るかなあ、新聞に載るかなあと話題になる。

「葛城高原自然つつじ園」の方に移動をすると、朱色に染まった斜面が見えてきた。満開のツツジに見入ってしまう。

12時10分から12時35分、ツツジを見下ろしながらゆっくりのお昼休憩。景色もよく天候もさわやか、絶好の公開ハイクとなる。ビジターのお二人は、ツツジをバックに記念写真を撮り楽しんでおられるよう。

昼食後、咲き誇るツツジを縫って、なかなかの急斜面を降りていった。満開、つぼみ、色違い、近づいて見る花もまた綺麗、どれもこれも美しい。花のトンネルをくぐり斜面の下へ出ると、左右両方の斜面が満開のツツジ。今度は違う道から再び上へ登り返す。見上げる空は、水色にうっすらはいたような白い雲、言うことなし。

超混雑のトイレ待ち15分の後、1時18分、北尾根コースを使って下山を開始。

下り始めは緩やかな林道で、新緑が美しく、落ち葉が快適なクッションになっている。緑の中に朱のツツジが見え隠れし、「一面のツツジも良いが、これもまた良し」と、誰かの声が聞こえた。青空をバックに、高々と枝を広げた新緑の大きな木があった。だれかが『わたしもこうなりたい！と思うような木』と表現され、詩人だなあと関心。与謝山の会には、歌人や俳人、芸術家が多い。



(北尾根コース)

2時28分、しばし休憩。緩やかだった林道が終わり、深く削りほられた急勾配の道になる。段差もきつく、ロープを頼りにゆっくり下る。登山道の位置を示すカタカナの表示は、「ケ」から始まっていた。ク→キ→カー→オ→エと変わる表示を見ながら、励みにしていた。続く急勾配に、徐々に足の力が弱っていく。ビジターさんも一生懸命。リーダーさんが、「あと少しです、がんばって。最後まで気を抜かないで慎重に下りてください。」と気を遣ってくださる。

2時54分、やっと平坦な道に出た。ホッと少し休憩。ロープウェイのロープが大きく見え、すぐに登山口駅が見えてきた。カタカナ表示の最後は「ア」。

2時55分、Cコースの皆さんと合流して、バスへと向かった。一度は来たいと思っていたツツジの葛城山、満開にあわせたように訪れることができ本当に良かった。役員さん達の念入りな計画に感謝します。

( U. K. 記 )

## Cコース

「体操済ませ、お弁当OK!お茶OK!」緑したたる五月、ヤマツツジを求めての山行の始まり。

往きはCもBと同じコースを、Bに続いて出発する。最初から坂道が続いたが、谷川のせせらぎや鳥のさえずり、少し濃くなった若葉もまぶしく、風も穏やかで絶好の山日和である。みんなの声も弾み、息も弾み、自然と前と後ろ(ゆっくり組)に分かれそれぞれ山の雰囲気を楽しみながら、歩を進める。Cコースは十名足らず、家庭的ななごやかさの中、休憩をはさみつつ、まとまって登る。

登りの後半は平坦尾根が続く。他の登山者も幼児から年配者まで多くあり、“こんにちは”と軽やかな声で挨拶が飛びかう。

“まだかな”“もうすぐよ”の声に励まされて最後の急登をふうふう・・・足も重いが登り切った。目の前に、向山に、ツツジの山がどーんと、“わーっ”と歓声。谷全体がツツジに声も出ない。昼食の後

には谷へ下りて、前後左右ヤマツツジに つつまれて歩く。“幸せ、こんなツツジ



(葛城山頂にてCコース)

の山見た事がない”との声、“まだ蕾もあり花も長く咲くのでこれからが最高”とも。

下山はロープウェイを利用する。連休でもあり混雑を心配していたが、待つ事もなく順調に下りることができた。ロープウェイからは、下山中のBコースの人達を探しつつ、山々に別れを告げた。

葛城山はお花の山と聞き、花の種類も調べて行っただけですが、ツツジのほかの多くは咲き終わっており、少し残念でした。(I. H. 記)

## B・コース タイム

天狗谷登山口(9:50)→ 山頂迄 1.7k地点(10:50) → 葛城山頂上(11:50)昼食(12:00～12:30)→ つつじ園散策(12:30～13:00) → 北尾根コース入口(13:40)→  
→ 自然研究路分岐・下山口迄 1.1k地点(14:15)→ 葛城山登山口(14:55)

## C・コース タイム

天狗谷登山口(9:55)→ 葛城山頂上(12:09)昼食(12:24～12:46)→ つつじ園散策(12:46～13:05) → ロープウェイ葛城山上駅(13:32～13:52)→ ロープウェイ葛城登山口駅(14:00)

## バスコースタイム

(往路) 宮津IC(6:30)⇒ 京田辺PA(7:58～8:06)⇒ スーパーセンターオークワ(9:02～9:27)⇒  
⇒ 登山口 9:36

(復路) 葛城山登山口(15:14)⇒ 入浴(15:37～17:30)⇒ 道の駅 京丹波 味夢の里(19:14～19:26)⇒ 宮津IC(20:06)

## 感想文

当日は晴天に恵まれて、公開ハイクでピジターの参加者（5名）もあり、ゆっくり歩いてとてもやさしい山でした。頂上也なくてまた人も多かった。

勿論ツツジも8分位咲いており、頭上にはどこかのテレビ局？新聞社？でしょうか、ヘリコプターが旋回していました。つつじ園を眺めながらの昼食、その後は園内を散策してゆっくり下山しました。

本当に誰かが言っていました、毎年のテレビの画面でしか見たことのないツツジの群生地を、この目で直に見るといって極めて贅沢な今回の山行でした。

(S. K.)



(つつじ園を見ながらの昼食)

晴天に恵まれての山行。10年前の山の会の山行では、ツツジは全然咲いてなく、今日の山行では全山に咲いていてとても良かったです。Cコースを作ってもらいました。行きは急登で、足場は石がゴロゴロと大変でしたが、ゆっくりゆっくり登り、また下りはロープウェイに乗って、ゆっくりと下山できて助かりました。次回の山行も参加したいと思います。役員さん運転手さんありがとうございました。

(O. T.)

## 大和葛城山の山行詠

(O. Y.)

初夏の葛城山は好条件に恵まれ、つつじ以外にも若葉の瑞々しい緑と爽やかな清流の音、そして鶯をはじめとする鳥声の豊さ・・・心洗われるような山行でした。



(つつじ園内を散策)

- 清流を右に左に若葉道
- 老鶯や登山者無口と饒舌と

(俳句の季語では、初夏の鶯は「老鶯」と詠むことになっています。)

- 木漏れ日は立夏の杉の木立道
- “青崩”なる土地の名前や山若葉

山頂の広さと人の多さは驚きでした。また、男性登山者の“タイトにカラフな短パン姿や真っ赤の登山着”も、世情に疎い高齢を再認識することでした。

- 手洗いもだんご屋も列つつじ山
- 山ガール山ボーイ初夏の山跳ねる